中施策評価書

作成日　令和元年　6月 11日

中施策事業名	防犯啓発事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力

①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる
③中施策	市民の防犯意識の向上を図る
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	防犯意識の向上が図られている
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・防犯の啓発　・功労者表彰　・市防犯協会

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
防犯教室の実施回数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	20	21	22	23	23	23
単位	回	実績値	11	12				
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
単位		実績値	0	0				

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a＋b)				1,893千円	105千円	
	a　事業費合計			139千円	105千円	109千円
	人件費	正規職員	人数	0.3 人	0 人	
			b 金額	1,754千円	0千円	
		非常勤一般職員等(事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計		1,754千円	0千円	
②　補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③　コスト（①ー②）				1,893千円	105千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				28 円	2 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より遅れている	×	C

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	目標に至らなかった原因について、防犯教室の開催は地域や団体が計画実施するため、数値が目標に届かなかった。一方で、防犯教室以外に防犯パトロール指導を愛知警察署と連携して行っており、防犯啓発について総合的に評価できる。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	関係機関や関係機関に委嘱されている団体と連携しながら教室開催を各団体に促していく。	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	教室時に配布する啓発品選定について、時事的なものを考慮し配布するだけでなく、防犯教室に参加する年齢層を意識し教室の内容が記憶に残るような啓発品にする。	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照）現年度に実施可能とした内容の実施状況		
（昨年度の評価書を参照）翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 11日

中施策事業名	自主防犯活動支援事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力

①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる
③中施策	地域の自発的な防犯活動を推進する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 （対象をどのようにしたいですか）	積極的に防犯活動を行っている
⑥中施策事業を構成する事務事業（手段）	・防犯ボランティア　・防犯モデル地区　・安全ステーション

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況

指標		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
自主防犯ボランティア団体数		目標値	65	67	69	71	71	71
		実績値	66	65				
単位	団体							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費（a＋b）				2,674千円	2,646千円	
	a　事業費合計			2,147千円	2,646千円	2,703千円
	人件費	正規職員	人数	0.09 人	0 人	
			b 金額	527千円	0千円	
		非常勤一般職員等 （事業費に含む）	人数	0.44 人	0 人	
			金額	639千円	0千円	
		人件費合計		1,166千円	0千円	
②　補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③　コスト（①－②）				2,674千円	2,646千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				39 円	38 円	

■評価

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>内容</th><th colspan="3">評価結果</th></tr>
<tr><td rowspan="3">（１）有効性</td><td>成果指標は目標値を達成していますか</td><td>ほぼ達成</td><td>△</td><td rowspan="3">B</td></tr>
<tr><td>大施策に貢献していますか</td><td>ある程度貢献できた</td><td>△</td></tr>
<tr><td>重点をおく指標は妥当でしたか</td><td>指標の内容を見直す必要がある</td><td>△</td></tr>
<tr><td rowspan="2">（２）妥当性</td><td>中施策実現のための事務事業構成となっていますか</td><td>適当である</td><td>○</td><td rowspan="2">A</td></tr>
<tr><td>中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）</td><td>期待された役割を果たしている</td><td>○</td></tr>
<tr><td>（３）効率性</td><td>評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか</td><td>適正であった</td><td>△</td><td>B</td></tr>
<tr><td>（４）進捗状況</td><td>中施策事業は計画通りに進んでいますか</td><td>おおむね計画通り</td><td>△</td><td>B</td></tr>
</table>

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	防犯教室等における啓発によって自主的な防犯活動が推進されていると考える。防犯ボランティア団体については、団体数も重要ではあるが、団員数や活動内容にも注視して指標を作成する必要があると思われる。

■改善案の検討

<table>
<tr><td>現年度に実施可能な改善･調整事項</td><td colspan="2">団体数だけでなく、団員数や活動場所や時間といった活動内容について増やしていけるよう各団体に働きかけを行なう。</td></tr>
<tr><td>翌年度以降に実施可能な改善･調整事項</td><td colspan="2">自主防犯団体との対話を重ね、メンバーが増加しているところはどのような工夫をしているかなどをヒアリングする。</td></tr>
<tr><td>今後、改善･拡大する事業</td><td>事業名</td><td>内容、理由、時期等</td></tr>
<tr><td>今後、実施すべき新規事業</td><td>事業名（仮称）</td><td>内容、理由、時期等</td></tr>
<tr><td>今後、休廃止する事業</td><td>事業名</td><td>内容、理由、時期等</td></tr>
<tr><td>（昨年度の評価書を参照）
現年度に実施可能とした内容の実施状況</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td>（昨年度の評価書を参照）
翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況</td><td colspan="2"></td></tr>
</table>

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 24日

中施策事業名	防犯対策事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力

①めざすまちの姿	03 まちが明るく、地域の防犯活動が活発で、犯罪が少ない
②大施策	明るく、地域の防犯活動が活発で犯罪が少ないまちをつくる
③中施策	明るく死角が少ない街をつくる
④中施策事業の対象	・市民 ・市内で遊ぶ子ども
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民が安心して生活でき、子どもが外で安全に遊んでいる
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・防犯設備の設置補助　・地域安全監視員　・愛知地区防犯協会連合会

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況

		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
防犯灯のLED化補助台数（平成３１年度完了予定）		目標値	280	350	300	300	300	300
		実績値	331	262				
単位	台							
防犯カメラ設置台数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	10	10	10	10	10	10
		実績値	7	8				
単位	台							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a＋b)				17,927千円	10,482千円	
	a　事業費合計			12,432千円	10,482千円	10,288千円
	人件費	正規職員	人数	0.94 人	0 人	
			b 金額	5,495千円	0千円	
		非常勤一般職員等(事業費に含む)	人数	3.36 人	0 人	
			金額	4,877千円	0千円	
		人件費合計		10,372千円	0千円	
②　補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③　コスト（①ー②）				17,927千円	10,482千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				261 円	152 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	前年度、防犯灯のＬＥＤ化が目標を大きく上回り前倒しで実施されたため、前年度比では減少したが、防犯カメラについては各区１件ずつを上回る結果となった。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	防犯カメラの補助に関して補助実績が伸びるよう働きかけていく。	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	防犯カメラが設置してある地区であることを周知できるプレート等を配布する。	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照）現年度に実施可能とした内容の実施状況	防犯カメラ補助を積極的に働きかけ、前年度比１件の増となった。	
（昨年度の評価書を参照）翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	防犯カメラ設置の有無による犯罪との因果関係については、ある程度の設置がされた後、継続して調査していく。	

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 11日

中施策事業名	交通安全推進事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力

①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる
③中施策	交通ルールの理解と遵守を促進する
④中施策事業の対象	市内在住・在勤・在学者
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	交通ルールの遵守
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・交通安全運動　・交通安全の啓発　・交通安全施設・規制等の要望

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
交通安全教室の開催回数		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	30	31	32	33	33	33
		実績値	28	25				
単位	回							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a＋b)				14,663千円	11,050千円	
	a　事業費合計			11,448千円	11,050千円	11,323千円
	人件費	正規職員	人数	0.55 人	0 人	
			b 金額	3,215千円	0千円	
		非常勤一般職員等(事業費に含む)	人数	6.07 人	0 人	
			金額	5,599千円	0千円	
		人件費合計		8,814千円	0千円	
②　補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③　コスト（①ー②）				14,663千円	11,050千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				213 円	161 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	保育園、小学校等の交通安全教室の参加者は毎年一定程度入れ替わるので、今後も継続して実施する必要がある。今年度は交通安全教室用の信号機を買い換えたため、実態に近い、交通安全教室を開催することができ、質が向上した。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	横断歩道シュミレータなどの啓発機材を借用して啓発活動をしていく。	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	交通安全の意識向上に向けた効果的な方法を検討する。	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照）現年度に実施可能とした内容の実施状況		
（昨年度の評価書を参照）翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 26日

中施策事業名	自転車対策事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力

①めざすまちの姿	07 道路環境がよく、歩行者も自転車も自動車も安全に通行することができる
②大施策	利用者が安心して通行できる道路環境をつくる
③中施策	利用者が安全で安心して通行できるように道路を整備・管理する
④中施策事業の対象	市内を自転車利用する人
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	自転車を放置していない
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・駐輪場の管理・運営　・自転車駐輪対策　・放置自転車

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況

撤去台数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	500	500	500	500	450	450
単位：台	実績値	376	375				
駐輪場の不足台数	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	190	190	190	190	190	190
単位：台	実績値	100	100				

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a＋b)			17,692千円	17,139千円	
a　事業費合計			17,107千円	17,139千円	17,766千円
人件費	正規職員	人数	0.1 人	0 人	
		b 金額	585千円	0千円	
	非常勤一般職員等(事業費に含む)	人数	0.13 人	0 人	
		金額	189千円	0千円	
	人件費合計		774千円	0千円	
②　補助金等（収入）			0千円	0千円	0千円
③　コスト（①ー②）			17,692千円	17,139千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			257 円	249 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	放置自転車撤去台数はほぼ横ばいで推移しており、都市拠点である駅周辺の放置自転車撤去については引き続き実施すべきである。駐輪場について、ＰＦＩ方式の導入を検討していき、３駅の市営駐輪場の再整備を進めていく中で放置自転車の減少対策及び駐輪台数の確保に努めていきたい。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	引き続き放置自転車の監視や撤去を継続していく。	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	駐輪場の改善策を検討する。駐輪場の利用について様々な手法を検討する。	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照）現年度に実施可能とした内容の実施状況		
（昨年度の評価書を参照）翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 26日

中施策事業名	災害対策事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力

①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する
③中施策	普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる
④中施策事業の対象	近隣自治体、遠方自治体、民間企業
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	平時から情報交換等により顔の見える関係を構築し、災害時に迅速な対応ができる関係となっている
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・災害対策本部、非常配備　・避難所　・防災行政無線等機器　・防災資機材　・地域防災計画　・防災会議、地域防災対策推進会議　・国庫、県費の補助金（防災関係）　・国民保護計画　・災害時要援護者支援、ボランティアセンター　・防災協定

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況

指標	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
締結した災害協定数（年間）	目標値	3	3	3	3	3	3
単位：数	実績値	7	1				
	目標値	0	0	0	0	0	0
単位：	実績値	0	0				

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a+b)			23,547千円	38,013千円	
a　事業費合計			17,117千円	38,013千円	24,571千円
人件費	正規職員	人数	1.1 人	0 人	
		b 金額	6,430千円	0千円	
	非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0.4 人	0 人	
		金額	1,948千円	0千円	
	人件費合計		8,378千円	0千円	
②　補助金等（収入）			939千円	4,840千円	2,501千円
③　コスト（①ー②）			22,608千円	33,173千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			329 円	482 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	本市の災害協定につきましては、一定程度充足してきていると考える。 様々な防災協定により、協力体制ができたことは、本市・市民にとって大変大きな力であるので、本市にとって有効な協定を締ぶことができるようにしていきたい。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	更なる協定締結先を模索し、いざというときのための有効となる協定を締結していきたい。	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	協定の締結先と災害時に確実な連絡・情報伝達ができる体制の構築していく。	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照）現年度に実施可能とした内容の実施状況	調整の取れたところから順次協定を締結した。	
（昨年度の評価書を参照）翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況	災害時に不足するであろう事業をあらいだし、協定締結先の選定を行い、協定を締結していく。	

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 24日

中施策事業名	消防水利設置・維持管理事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力　羽場　浩一郎

①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する
③中施策	普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる
④中施策事業の対象	市内の市街地及びこれに類する地域
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	耐震性を有する防火水槽が整備されている
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・立上り消火栓に関すること ・防火水槽の設置及び改修に関すること ・国庫補助金及び県費補助金に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
耐震性防火水槽整備率（市街地等区域を概ね網羅できる78基（100%）を目標値とする）		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	76	77	78	78	78	78
		実績値	76	77				
単位	基							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a+b)				21,395千円	19,278千円	
	a　事業費合計			12,276千円	19,278千円	18,809千円
	人件費	正規職員	人数	1.56 人	0 人	
			b 金額	9,119千円	0千円	
		非常勤一般職員等(事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計		9,119千円	0千円	
②　補助金等（収入）				9,895千円	1,795千円	1,795千円
③　コスト（①ー②）				11,500千円	17,483千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				167 円	254 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	Ａ
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	Ａ
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	Ａ
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	Ａ

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	耐震性防火水槽は順調に設置されており、且つ、目標を達成している。新設する場所の立地及び土地の形状により費用が変動するため、平成３１年度予算については減額となっている。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	立上り消火栓移設に際しての補助金の増額変更 耐震性防火水槽設置に際し設置時期の調整 （大根公民館設置により、区の行事等との調整が必要）	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	耐震性防火水槽設置に際し設置時期の調整	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照） 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
（昨年度の評価書を参照） 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 14日

中施策事業名	消防団運営事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力　羽場　浩一郎

①めざすまちの姿	18 災害時に行政と民間、地域、近隣市町村との連携がとれている
②大施策	災害時に行政と民間、地域、近隣市町村と連携する
③中施策	普段から各機関との連絡調整がとれる体制をつくる
④中施策事業の対象	消防団員・区、町内会・関係団体
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地域の中心となり、地域住民と相互に連携協力し、活動を行っている
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・消防団員の退職報償金に関すること　・消防団員等の公務災害補償に関すること　・消防団式典に関すること　・消防団の各種行事に関すること　・消防団に対する警備依頼に関すること　・消防団交付金に関すること　・消防団の組織運営に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況								
消防団活動回数(年間)		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	820	820	820	820	820	820
		実績値	925	801				
単位	回							
		事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
		目標値	0	0	0	0	0	0
		実績値	0	0				
単位								

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a+b)				47,884千円	34,432千円	
	a　事業費合計			30,991千円	34,432千円	61,833千円
	人件費	正規職員	人数	2.89 人	0 人	
			b 金額	16,893千円	0千円	
		非常勤一般職員等(事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計		16,893千円	0千円	
②　補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③　コスト（①ー②）				47,884千円	34,432千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				696 円	500 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	平常時においては、地域における消火訓練や祭礼警備等に従事し、台風接近の際の緊急時には、管内を警戒する等して地域に貢献した。年間活動回数の目標値より実績値は減少しているが、これは、地域からの要望数や災害状況によって若干の活動回数が変わるものであり、中施策事業の意図自体は達成している。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	新規消防団員加入促進・消防団活動の普及啓発 大規模災害に備えた消防団活動	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	救助資機材を始めとした消防団装備の充実強化	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照） 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
（昨年度の評価書を参照） 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 24日

中施策事業名	女性防火クラブ事務	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力　羽場　浩一郎

①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する
③中施策	災害に備えて家庭での準備を促す
④中施策事業の対象	女性防火クラブ員
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	クラブ活動を通じ、家庭や地域からの火災を予防する
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・女性防火クラブの指導育成に関すること ・女性防火クラブ交付金事務に関すること ・女性防火クラブ半日体験に関すること ・女性防火クラブ研修に関すること

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況

指標	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
女性防火クラブ行事参加人数(年間)	目標値	300	300	300	300	300	300
	実績値	301	292				
単位：人							

指標	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位：							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a＋b)				3,421千円	1,175千円	
	a　事業費合計			1,316千円	1,175千円	1,280千円
	人件費	正規職員	人数	0.36 人	0 人	
			b 金額	2,105千円	0千円	
		非常勤一般職員等(事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計		2,105千円	0千円	
②　補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③　コスト（①ー②）				3,421千円	1,175千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				50 円	17 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	昨年度に続き、１支部減となり、年度当初参加予定の訓練が、事業の見直しにより参加の要請がなくなったこと、天候不順で中止になったものもあり、実績値が減少したが、クラブ員を通じ、火災予防の街頭広報等防火広報に努めたことから一定の活動に貢献した。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	災害は火災のみならず地震による被害も想定される。家具の転倒防止等の周知をはかっていきたい。	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	災害は火災のみならず地震による被害も想定される。家具の転倒防止等の周知をはかっていきたい。	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照）現年度に実施可能とした内容の実施状況		
（昨年度の評価書を参照）翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		

中施策評価書

作成日　令和元年　6月 24日

中施策事業名	防災啓発事業	部課名	市民生活部・防災防犯対策課
		作成者	塚田　力

①めざすまちの姿	19 防災を行政任せにせず、普段から家庭と地域の準備と連携が十分できており、災害時には助け合うことができる
②大施策	災害に備え、家庭と地域の準備と連携ができ、災害時には自発的に助け合えるよう支援する
③中施策	災害に備え家庭と地域の連携を促し、災害時の助け合いの意識を向上させる
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	災害時に地域を通してスムーズな連絡調整を行うことができ、消火活動や救出活動を迅速に行うことができる状態である
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・防災訓練　・防災啓発　・自主防災組織連合会　・安心安全情報共有システム　・地区で開催される防災訓練・講話

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況

指標	事業実施年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度
地域で実施した防災訓練の数（年間）	目標値	40	42	44	46	46	46
単位：数	実績値	28	44				
	目標値	0	0	0	0	0	0
単位：	実績値	0	0				

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度			決算額 平成29年度	決算額 平成30年度	予算額 平成31年度
①　総事業費(a+b)			11,634千円	5,349千円	
a　事業費合計			6,373千円	5,349千円	0千円
人件費	正規職員	人数	0.9 人	0 人	
人件費	正規職員	b 金額	5,261千円	0千円	
人件費	非常勤一般職員等(事業費に含む)	人数	0.6 人	0 人	
人件費	非常勤一般職員等(事業費に含む)	金額	2,923千円	0千円	
人件費	人件費合計		8,184千円	0千円	
②　補助金等（収入）			0千円	0千円	0千円
③　コスト（①ー②）			11,634千円	5,349千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))			169 円	78 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
（１）有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
（２）妥当性	中施策実現のための事務事業構成となっていますか	適当である	○	A
	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか（事業の役割が重複していませんか）	期待された役割を果たしている	○	
（３）効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
（４）進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	今年度は地域からの訓練、講話の要請が多かった。これを毎年続けてもらえるようにする対策が必要になる。

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善･調整事項	訓練の仕方など実施内容について詳しく説明し、取り組みやすさなどを伝えていきたい。	
翌年度以降に実施可能な改善･調整事項	他市町の先進的な事例で、各自主防災会が簡単に実施できる訓練を紹介していく。	
今後、改善･拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名（仮称）	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等
（昨年度の評価書を参照） 現年度に実施可能とした内容の実施状況		
（昨年度の評価書を参照） 翌年度以降に実施可能とした内容の実施状況		